

# 農業技術 プリズム

2013年に鹿児島県と松元機工が共同開発した茶乗用型少量農薬散布機は、微細な霧状散布と送風で薬剤散布量を削減しながら、茶園表層部の病害虫を防除する機械です。

この散布機を用いた少量農薬散布体系を県内茶園で実証し、その効果と農薬費、防除作業時間の削減について調査しました。

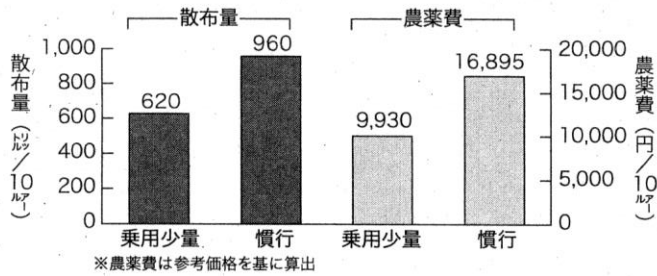
二番茶生育期から秋芽硬化期までの4回の防除時期に、少量農薬防除体系（10ア当たり100リットル、秋芽3葉期だけ同1200リットル）と、乗用慣行（同1700リットル）の防除効果と比較したところ、新芽を加害する病害

虫に対し、同等の防除効果がありました。  
このような散布機を用いた少量農薬防除体系は、乗用慣行と

## 茶の乗用型少量農薬散布機

## 防除効果は慣行同等 散布量やコスト低減

茶乗用型少量農薬散布機と乗用慣行の農薬散布量と農薬費の比較



機は散布圧力が一定で、作業速度によって散布量を調整するため、10ア当たり1200リットル散布時間の散布時間は乗用慣行と比べて長くなりますが、薬液補給の労力は軽くなります。

（県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門茶業研究室主任 研究員 寺井清宗）